

JWTC NEWSLETTER

Vol.31 No.2 August 2011

実り多き旅 “JWTC有志による東北応援ツアー”

被災地・松島で「みやぎおかみ会」と復興応援の集いも

東北の復興に旅のチカラを。JWTC東北応援ツアー「がんばろう東北」が、7月29～30日、実施されました。参加メンバー12人が先ず向かった先は、日本三景・松島の高台に佇む「ホテル松島 大観荘」。湾を見下ろす眺めのよいレストラン・潮騒で、宮城県内の旅館の女将衆で構成された「みやぎおかみ会」（磯田悠子会長）の皆さんと“東日本大震災復興応援の集い”と題した昼食意見交換会を約2時間にわたり行いました。

7人の女将さん*と美味しい洋食を囲みつつ生の声——、復旧作業員や被災者の受け入れ、なかには一般営業を貫く旅館もあって、震災からの日々や想いを吐露してくださいました。

*順不同。磯田悠子氏／ホテル松島 大観荘、四竈明子氏／旅館かつらや、高橋知子氏／篝火の湯 緑水亭、菅原賀寿美氏／湯の原ホテル、高橋弘美氏／名湯の湯 鳴子ホテル、安倍智沙子氏／四季の宿 みちのく庵、一條千賀子氏／湯主 一條

こうした場を提案し、心を砕いて橋渡しくださった仙台市経済局国際経済・観光部の壹岐雅章部長には、心より御礼を申し上げます。閉会挨拶のなかで壹岐氏は、ただ一語「東北に来てください」と結んだのが印象的でした。震災直後からの応援消費も間接消費が多勢を占めるなか、実際に東北を訪ねる積極消費が実現できたことにJWTCの機動力を感じます。今後は継続的な交流、送客や情報発信をはかることが、私たちに課せられた使命といえましょう。

被災地において華やかさを忘れない女将さんたちに見送られ、一行は気仙沼へと向かいました。甚大な被害を受けた港周辺や市中心を視察。その衝撃たるや筆舌に尽くし難いものでしたが、現実を知ることまた、大きな意義がありました。

宿泊先の盛岡つなぎ温泉「四季亭」はNHK朝の連ドラ「どんど晴れ」のロケ地にもなった岩手県有数の名旅館。みちのくの旬が彩る会席料理の夕食時には、東日本大震災復興特別委員長の黄川田徹衆議院議員からJWTCへメッセージが



がんばろう東北

公務多忙で夕食会に駆けつけることが叶わなかった黄川田徹議員よりJWTC宛てにFAXメッセージが寄せられました（一部省略）

日本旅行業女性の会のご盛会を心からお慶び申し上げます。ご案内のとおり、わが郷土・岩手は東日本大震災・大津波で甚大な被害を受けました。しかしながら、国内はもとより海外からの援助もいただき、復旧から復興へと力強く歩んでいます。私はじめ地域の一人ひとりが再生・復興に力を尽くしておりますが、岩手にいらしていただき、物産をお買い求めいただくことも大きな復興支援となります。特に、平泉文化遺産の世界遺産登録は復興への希望の光であります。どうぞ今回の視察を通じて、岩手の良さを知っていただき、大いにPRしていただければと思います。

むすびに、ご支援とご配慮に重ねて御礼申し上げますとともに、本視察旅行が実り多きものとなり、皆様のますますのご活躍につながりますことを祈念いたします。

衆議院議員 黄川田 徹

寄せられ、代読がなされました。自らも震災で身内を失う不幸に遭われ、公務で多忙のなかのご配慮でした。

最終日は、世界文化遺産に登録されたばかりの平泉を訪ね、中尊寺、毛越寺で平和に祈りを捧げました。戸井川会長を団長に、手配から旅程管理、添乗までを西鳥羽監査役が務めたことでスムーズな運び、傘いらずの曇天で暑さもトラブルもなく、実り多き旅となりました。

千葉千枝子 観光ジャーナリスト



松島・大観荘で、みやぎおかみの会の方々、仙台市壹岐観光部長と



つなぎ温泉・四季亭の女将・林晶子さん、従業員の方と

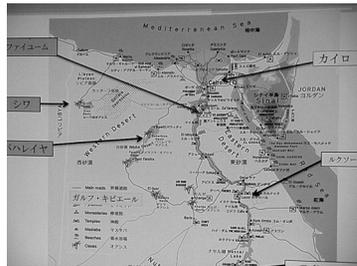
ディステーションセミナー「エジプト」

第2回勉強会は「エジプトディステーションセミナー」をテーマに、西麻布のエジプトレストラン「ネフェルティティ」にて開催されました。当日の講師はエジプトのプロで、当会会員である田邊真利子さん（エジプト大使館エジプト学・観光局）、田窪ふみ子さん（㈱トラベルハーモニー）の2名が担当されました。

開催に先立ち、これまで長年日本とエジプトとの観光交流にご尽力され、今回まもなく帰国される観光局観光参事官イブラヒム・カリール氏よりご挨拶をいただきました。

その後、前半は田邊さんから、エジプトの代表的世界遺産、エジプトのイメージとは結びつかないのに実はすばらしいゴルフ場やスパを併設したリゾートホテル、アスワン〜ルクソール間のナイル川クルーズ、紅海でのダイビング、遺跡をうまく利用したイベントの提案、等々について、観光局制作の充実したパンフレット類とともにご説明いただきました。

最近、GPSによって砂漠に未確認の多数の遺跡が存在していることが判明、今後これらの発掘が期待されるといった新しい情報に、ますますエジプトへの期待が高まります。



後半は何度も現地に乗乗されていて、ご自身も「エジプト大好き！」とおっしゃる田窪さんならではの、臨場感あふれる写真を利用した新しい切り口でのエジプト紹介がありました。

特に砂漠のキャラバンは、砂漠にテントを張りながら移動していく現地での小旅行で、砂漠の地平線と朝日、夕日、星空など普段の生活では味わえない大自然に触れるダイナミックな体験が提案され、とても新鮮でした。カイロの最新のショッピングセンターの写真からは洗練された街の様子がうかがえ、ガイドブックにない生きた情報が勉強できました。

セミナーの数日前の報道にあった「日本の旅行会社からエジプトへ向けたツアーが再開された」というニュースは、タイミングのよい明るい話題でした。確かな情報を入手することが商品販売側の自信につながり、それが消費者の「旅ごころ」にも火をつけるのかなと思いました。

会場のレストランではエジプト料理をいただきました。現地スタッフのサービス、アラビアンナイトのようなインテリア、本場のベリーダンスの鑑賞と、すっかりエジプトの魅力に取り付けられたひとときでした。

《参加された方のご感想》

- 旅行業を真っ直ぐに取り組んでいらっしゃる方のプレゼンは感動的でした。もちろんエジプトに行きたいなあ…！（ビジター）
- 会員の講師による楽しい勉強会で、エジプトの魅力を十分に感じました。エジプト観光の再開に向け、良いタイミングのセミナーでした。（会員）

高林しおり 東京都消費生活総合センター

★特別勉強会★

「静嘉堂文庫美術館」訪問

5月28日（土）、特別勉強会が開催されました。

前日の雨の恵みで、淑女にふさわしい雰囲気にとっとり若緑が滴る、その庭園の奥に静嘉堂文庫美術館は佇んでいます。

JWTC会員とビジターの総勢21名は、美入学芸員の長谷川祥子先生から静嘉堂の沿革や日本の陶磁器名品について伺いました。

三菱2代目の社長岩崎彌之助氏が、幕藩体制の崩壊に伴う諸大名の売り立てによる美術品の散逸、特に海外への流失を懸念して収集を始め、明治25年（1892年）には文庫を創設。太平洋戦争も経たのに、国宝7件、重要文化財83件、重要美術品79件を含む膨大な数の美術品や書籍を守ってこられたことに、まず感謝です。

長谷川先生はパワーポイントのスライド映写を使い、釉薬のこと、中国の景德鎮と日本の有田の土の性質の違いなど、化学的なお話も交えて日本の陶磁器の歴史を語ってくださいました。

そして、表千家の末席に座している私にとって、特に興味深かったのは、野々村仁清の華々しい登場とその後の功績です。政治や文化の世界で茶の湯が重要な位置を占めてゆく過程において、茶道具としての色絵陶器の登場がいかに画期的なことであったか。仁清という稀代の天才の旺盛な創作意欲と、スポンサー達の茶の湯に対する執着心がぴったりとマッチして、それこそ窯の中の化学反応で焼成されるようにして、日本独自の美の世界がつけられていったのだと、ちょっと興奮しました。



レクチャーの後は展示室観覧です。ハイライトの重要文化財、有名な桜の茶壺（「色絵吉野山図茶壺」）についても実物を目の前にして長谷川先生が解説くださいました。

仁清のほかの作品やそれ以外のすばらしい美術品も多数拝見し、すっかり目の保養をした美女軍団は、内面を磨いてますます美しくなるところで、次は食い気。二子玉川の「九つ井」という、古民家をビルの地下に移築したステキな料亭で懐石弁当をいただきました。季節に相応しい、手の込んだ数々のお料理と、白ワインや冷酒などを堪能し、盛り上がりました。

二子玉川の再開後の新しい街の様子にも目を驚かせ、やっぱりこうして仲間と外に出て刺戟を得ないといけない、と充実した1日が大変ありがたく思いつつ帰路につきました。

山科 ひとり トップツアー

健康な皮膚を保つ～紫外線対策とアンチエイジング～

講師：原田 学 先生（成城皮膚形成外科 院長）／ 原田ゆかり 先生（上級フェイシャルセラピスト）



8月3日に青山「アーリーズテラス」で開催された特別勉強会は“紫外線と皮膚の老化の関係について”で、一同興味津々でした。

まずは、皮膚についてのお勉強です。皮膚は大きくは表皮と真皮に分かれ、表皮は4層で形成されています。一番上が角質層で一番下は基底層となり、この基底層では細胞分裂を繰り返して皮膚を再生し、生まれた皮膚細胞が少しずつ角質層まで押し上げられて最後は剥がれ落ちます。基底層の下が真皮で、コラーゲンやタンパク質繊維など皮膚を形成しハリとうるおいのための成分を作り出しています。

そしていよいよ本題の「皮膚はなぜ衰えるか」についてです。皮膚の老化の一番の原因は紫外線であり、「光老化」ともいわれます。その兆候としてシミ・シワ・たるみ・くすみなどが表れますが、これらは年齢によるものではないそうです。ですから、紫外線対策と皮膚



再生のための細胞分裂を促すケアをすれば、いつまでも健康で若々しい皮膚でいられるわけです。

両先生から教えていただいたポイントをいくつかご紹介します。

- 紫外線対策の化粧品を選ぶとき、SPF値が高くなるほど皮膚への刺激も強くなり、肌のためには逆効果。SPF値16で十分。
- 肌細胞を作る核の細胞分裂にはビタミンAが必要。また、Aは紫外線により酸化し破壊されるので、その酸化を防ぐために活躍するのがビタミンC。
- メイク落としをしてからの洗顔は、必要な成分まで落とす過ぎてしまうので、ほとんどは洗顔だけで十分。
- 洗顔をする前には必ず手洗いをすること。清潔な手で洗顔しないと、手の汚れが顔につく上、洗顔効果も減少する。

最後になりますが、紫外線による肌へのダメージを防ぎビタミンAを補給する化粧品を開発されている、エンビロン・スキンケアシステム様からもご協力をいただきました。

お肌の正しいケアや化粧品について更に詳しくお知りになりたい方は、ぜひ原田先生のクリニックを受診してみてくださいね。

成城皮膚形成外科 電話：03-3482-8244

HP：http://www.myclinic.ne.jp/seijohihukei/pc/index.html

田辺典子 京王プラザホテル



この業界に生きてきて

名古屋支部 木下弓子

5月で66歳になった。来春には11年かかわってきた大学（観光・文化コース）の非常勤講師を卒業する予定。これまで公務員（8年）→工業翻訳（5年）→ホテル（16年）、その間、大学講師もと5つの職場を働いてきた。何の脈絡もなさそうだし、公務員時代の同僚には「公務員から（暗に、給料も待遇もよかったのに…）こんな人に頭を下げる職場で（この業界を低く見る気持ちが…）働いているね」と言われたこともある。私は即座に「公務員こそ究極のサービス業ではないですか？ しかも貴重な皆様の税金を給料の糧とする！」と答え、相手の目を白黒させた。そのとき以来、職業を変えても大きくサービス業という枠組みで働いているのだと実感してきた。大学も、今や大切な学生さんを顧客として預かるサービス業の世界である。

両親のお話を少々。私がこの世界で楽しく生きてきた原点の一つに、両親の影響がある。父は農協組織で働く一介のサラリーマンだったが、実家が北九州・若松の料理旅館だったせいか、料理の盛り付けや器の話が食卓の話題であることが多かったし、豊かでもなかったのに新しい物好きで、戦後、国内路線が再開され

て間もなく、昭和28年（当時8歳だった）がよく覚えているに「福岡ー岩国」路線を利用し、安芸の宮島の「岩惣」の離れに泊まるなどして母の懐具合を危うくさせた。そういう母も実家は酒屋（北九州・小倉でいとこが引き継いでいる「古武士屋」）で、取引先の旅館やレストンの話題に事欠かなかった。母を15歳で亡くした際、父は母のいない正月を我が家で過ごすのが嫌だったようで、その際も金沢の「浅田屋」に泊まっている。今でも老舗旅館らしい正月のしつらえや、美味しい治部煮など思い出す。しかし、絶対身分不相応だったと思う。そんなこんなで父が亡くなった際、貯金が限りなくゼロ円に近かったのが可笑的。時々、私もそんなDNAを持っていると感ずることがある。

九州の話題が出てきたところで、前復興大臣の一連の言動について、私も弁解の理由にした「B型・九州人」なので一言。彼の祖父は「水平社」の大立者・松本治一郎氏であり、最も差別を嫌って戦ってきた尊敬に値する人物だけにとても残念。ぜひとも「実るほど頭を垂れる稲穂かな」精神で、言葉遣いには気を使ってほしい。

差別といえば、冒頭にも書いたとおり、

この業界は低く見られているのか、高飛車に威張り散らし乱暴な口をきくお客様に遭遇することが多い。若い同僚は、理不尽な彼らの態度を許せないと泣き出す者もいたが、いつも「これも給料のうち。このような態度をとるお客様はたとえ肩書がすぐくても、決して一流の人物ではない。むしろ何か、面白くないことがあって我々にあつたているかわいそうな人と思ったほうが良い」となだめていた。また、学生さんには「この業界は、頭を下げて当たり前の世界だけど、同じ働く人間としてプライドを持って仕事をして」と語りかけている。観光立国としてこの国が向かってゆくなら、業界の待遇向上と人材尊重を是非とも実現してほしい。



北九州市小倉城近く 常盤橋（長崎街道終点）にて大阪在住の孫娘とともに

今回は名古屋支部の加藤真知子さん（名鉄観光サービス(株)）にバトンタッチ。加藤さん、よろしくお願ひいたします。

■第3回勉強会■

ディステーションセミナー「ネパール」

平成23年6月11日(土) ホテルキャッスルプラザにおいて

元JWTC会員であり、約1年前にネパールのカトマンズで旅行会社「アシュストラベルズ&ツアーズ」を起業し、エグゼクティブ・ディレクターとして活躍されている長谷川裕子さんにお話を伺いました。



ネパールで起業した経緯は小さい時から独立起業の夢をずっと持っており、2年前訪れたネパールで
①信頼できるパートナーに出会った ②ネパールの魅力と新規開発の可能性を感じた ③年齢的に最後のチャンス等々、タイミングとチャンスが合致し今日に至ったそうです。

人間関係が全てを左右する、仕事よりも家族・お祭り・休みを優先する、上下関係を重視、大家族制、宗教に根付いた生活と人生観、男尊女卑の社会、曖昧なカスタム等、興味深い内容で話は尽きませんでした。

現在は9人家族の5階建ての邸宅にホームステイし、家事一切はメイドが行うにもかかわらずネパール料理のターメリック及び野菜・豆のお陰でスリムな体を保っているそうです。

争い事がなく、老人ひとりぼっちもなく、うつ・アルツハイマーに罹る人もなく、将来の不安がなく、神様が守ってくれる助け合いの国、不思議な国と、聞けば聞くほど実際に訪れたくなりました。

価値観はそれぞれ、答えは一つではない。異国の地で奮闘するというよりも本来の人間の姿を取り戻した豊かな生活をエンジョイしているという言葉の方がふさわしいと感じました。 三宅博子 日通旅行



「2011年度第3回勉強会

ザ・キャピトルホテル東急 見学会」のお知らせ

日時：2011年10月22日(土) 10時30分
(受付開始10:15~)

場所：ザ・キャピトルホテル東急 (フロント前に集合)
<http://www.capitolhoteltokyu.com/>

(地下鉄 千代田線・丸ノ内線・南北線・銀座線 5番出口地下直結)

費用：無料(ホテル見学会のみ)

- ホテル見学会の後、昼食懇親会(要実費)を行う予定です
- お問い合わせは事業部(千葉)まで(info@longstaystyle.com)

詳細につきましては、あらためてご通知申し上げます



震災の影響がまだまだ続く今年の夏。先日余震で目覚め、そのまま寝付けなくなりました。加えてすっきりしない空模様で、「暑い夏！」を感じられないままに迎えた8月上旬。当時は盆前からの猛暑を予想もできませんでした。

旅行業界も完全回復とはいかないですが、それでも各社工夫を凝らし、それぞれが業界復興に向けてたゆまぬ努力を続けています。

過去にもいろいろな事が起こり、そのたびに旅行業は平和産業だと痛感してきましたが、今年は特別です。旅は人を元気にします。今こそ旅の魅力を最大限に伝えたい。日本人が元気になっていることを海外の方に知ってもらうためにも、多くの方に旅行してもらいたい。そして今は来日する外国の方も少ないですが、近い将来再び日本に足を運んでもらえるよう日本の魅力を発信し続けて行きます。「なでしこジャパン」の感動を胸に、今日も明るく元気に前を向いて！(C.K.)

★新入会員紹介★

会員 No.430

榎本 律子

セブンスリーゼーションズ(株)



2010年よりウインドスタークルーズの日本代理店としてクルーズ販売およびクルーズ旅行の素晴らしさを広めるため奔走している中、この度JWTCへ入会させていただくことができましたこととありがたく御礼申し上げます。

会員の皆様とも楽しく交流を深ながら、今後のJWTC活動に極微力ではありますが貢献できましたら幸いです。

会員 No.431

関口 久美子

(株)プライムインターナショナル



このたびはJWTCへ入会させていただき、ありがとうございました。

起業をしてから早20年、小さい会社ならではの「フットワークの良さときめ細やかなサービス」をモットーに、インバウンド業務を含めたイベント・会議などのコーディネートをしております。皆様と楽しくいろいろなことを学ばせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

新著発行のお知らせ

『観光ビジネスの新潮流
～急成長する市場を狙え』

著者名 千葉千枝子

出版社 学芸出版社

★定価2415円(2300円+消費税)

★ISBN: 978-4-7615-2505-7

★全国書店にて発売

★四六版 220頁 縦書 並製



このたびの東日本大震災にて被災された地域の皆様、関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。私ごとではございますが、岩手県釜石市に暮らす最愛の祖父を亡くすこととなり、また、この未曾有の事態に経済が混迷を極めるさまには、ただただ心を痛めるばかりです。

この大局のなか、明日の日本の活力となるべく“観光”をテーマにした一冊の本を上梓することとなりました。

業界の垣根を超えた取り組みが進む観光の世界で、特に注目をされておりますニューツーリズムをテーマに綴っております。進化する観光ビジネスの最前線を15のテーマ(章)でお届けします。

本著は、著者が連載しました月刊レジャー産業資料(総合ユニコム)「台頭するニューツーリズム・ビジネス最前線」をもとに、一部、大幅に書き下ろしを加えております。